

友の会通信

2008
Vol.
18

～群馬県立自然史博物館友の会～

— 博物館視察研修会 —

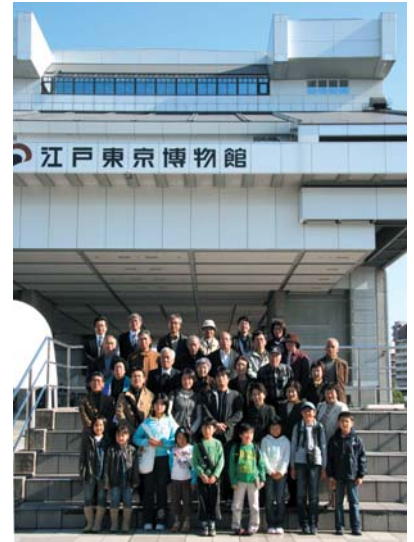
～葛西臨海水族園・江戸東京博物館で研修～

11月18日(日)は晴天に恵まれ、総勢35名が視察研修に参加しました。広大な葛西臨海公園内の水族園と江戸東京博物館での研修でした。

まるで東京湾に浮かぶようなガラスドームの水族園では、熱帯から極地までのたくさんの生き物、ドーナツ型の大水槽を回遊するクロマグロ、ペンギンの生態、ウミホタルの発光実験などを見学しました。海に生息するすばらしい生命の営みに感動するとともに、改めて地球の汚染や温暖化に歯止めを…と強く思った次第です。

江戸東京博物館では、江戸・明治・大正・昭和・戦前・戦中・戦後・そして今という時代に分け、失われつつある姿をリアルに展示し、歴史や文化遺産を守り伝えるものでした。特別展「夏目漱石」は最終日とあって、見学者で混雑しておりました。生命・歴史・文化を振り返り、未来を考えさせられる充実した有意義な研修の一日でした。

(19-504 堀越友子)



参加者の声 sankasha no koe



■楽しく有意義な一日をもつことができ、ありがとうございました。

(19-142 松場四男)

■博物館を一日かけてみたかった。

(19-015 佐藤七三)

■視察研修に初めて参加させていただきました。目的地の選定や時間配分等いろいろ考えてみて、内容が充実していたことや、また、昼食や入館料その他いろいろついて2500円は本当に安いとびっくりしました。こんな視察研修会ならば、毎回参加させてほしいと思いました。本当に充実した一日に感謝感謝！でした。

(19-566 横田昇)

■お天気にも恵まれて、群馬県立自然史博物館友の会の博物館視察研修に参加することができて嬉しかったです。葛西臨海公園水族園では、世界的に有名なマグロを見学したり、珍しいウミホタルの発光実験を見学したりして、勉強になりました。江戸東京博物館では、江戸時代から現在の東京までの歴史遺産を見学することができ、大変興味深く見学しました。こういう視察研修ができるのも、博物館友の会に入会していたからだと思います。友の会の皆さんには感謝しています。

(19-068 下幸夫)

■葛西臨海水族園のウミホタルが自分の思っていたものと全然違って驚きました。江戸東京博物館の特別展も良かったし、お陰様で楽しい一日を過ごすことができ、また、ボランティアの人とも交流がもてました。

(19-510 黒澤一二三)

■今年は大きな収穫がありました。先方にボランティアがいたことです。お願いした方が私がふだん考えているようなタイプの方で、決して一方的な話し方ではなく、ゆったりとした行動で、会話も時々横道へそれたり話題性があり、結局はそれが解説の効果を大きくしたものでした。やがて一緒に行った方達が4～5人寄ってきて、その方達との会話もあって、約1時間が短く感じられたほどでした。

(19-503 富岡清)

■絶好の行楽日和に恵まれ、車の流れも順調に最初の見学地に到着。街路樹の紅葉を見ながら水族園へと進む。そこで一瞬目を疑ったのは、ガラスドームがまるで海に浮かんでいるように見えたのです。その下に広がる海の生き物たちの世界、中でも大きな水槽の中を悠々と回遊するマグロや元気に泳ぐペンギンの可愛い姿、また、ウミホタルの生態にも出会う等、有意義な研修の旅ができました。

(19-513 茂木栄子)

■天気も良く、最高の研修旅行でした。一番印象深かったのは、2200トンのドーナツ水槽の中で泳ぐマグロ、カツオの姿です。まるで飛行機のジュラルミンをまとったような銀色に輝くその姿は、圧巻でした。また、江戸東京博物館では、江戸の四季折々の風景、小袖、浮世絵などが印象深かったです。

(19-548 長谷川順一)

■ナンキンハゼの紅葉に迎えられ、マグロやサメの群泳や、わずか2・3mmのウミホタルの幻想的な発光の様子に感動し、更には「夏目漱石」特別展の最終日が見られてと、異色の二館で充実した一日でした。

(19-516 古屋京子)

■ペンギンが「ジャボン」といい音を立てて、水中へ行っていました。上部から見たウミガメの水槽では、水面でウミガメが泳いでいて、「ピチャ」と音がしていました。リーフイ・シードラゴンも見られてよかったです。色は黄緑で驚いてしまいました。

(19-091 浦野晃一)

■水族館や江戸東京博物館は楽しかったです。バスガイドさんが上手かったです。お世話になりありがとうございました。

(19-092 浦野真衣)

■江戸東京博物館に行けるということで、来る日を指折り数えて待ちました。館内では期待した通り、丁寧な案内の人と出会えて、時間が足りないくらいでした。天候にも恵まれ、本当に有意義な一日でした。

(19-094 浦野瑞枝)

「神流町で化石の発掘体験をしよう」

日時:平成19年10月21日(日) 場所:神流町恐竜センター化石発掘体験場



今年度2回目のフィールド活動は、10月21日に神流町にある恐竜センターの化石発掘体験場で実施されました。多くの方が訪れるためか、会場は少し荒れていましたが、恐竜センター佐藤和久学芸員さんのご指導を頂きながら、岩石を割ったり洗ったりしてみると、シジミやカキの仲間や植物化石の破片が次々に見つかり、瞬く間に予定の2時間が過ぎてしまいました。

化石を発掘した地層は、中生代の白亜紀に堆積したもので、今から1億2千万年前のものとなっています。恐竜全盛時代の地層です。

28名の参加者の中には、親子づれの方も多かったのですが、太古のロマンにひたりながら、貴重な体験ができたのではないのでしょうか。

(19-501 森平利政)



参加者の声 sankasha no koe

■最初はあまり出てこなかったけど、あとになっておじさんがシジミの化石をくれた時からポコポコ出てきて、おとうさんも2つ3つ見つけたので、バンザイでした。

(19-193 二瓶正之)

■すごく楽しかったので、またやってほしい。

(19-028 宮澤拓未)

■生まれて初めての体験でした。小さい時から恐竜・化石等が好きだったため、子どもと一緒に参加できて良かったです。これからも同様な企画をお願いします。

(19-026 宮澤和弘)

■前回かなり大きいのを見つけたので、今回も少し期待をしていたのですが、今回は全くだめでした。でも、秋の一日を子どもと一緒に発掘体験ができたのが一番の思い出となりました。

(19-161 岡野宏巳)

■化石をほる前はドキドキした。またやりたい。

(19-165 岡野真士)

■化石があんなにたくさん発掘できて、楽しかったです。ほりだしたものを学芸員の方などに見ただき、すぐに何の化石かわかったので、より楽しかったです。

(19-110 佐野成寿)

■化石がたくさんとれて楽しかったです。

(19-114 佐野暁寿)

■今回は友の会の行事に初めて参加しました。博物館職員の方々と学芸員の方が予想以上にやさしく、詳しく説明してもらって驚きました。化石は、植物、シジミ、カキなどがとれました。おもしろく楽しかったので、また参加したいです。

(19-078 倉金香菜子)

■ほくは、化石発掘体験に参加して良かったです。最初に学芸員さんが化石のとれる石とそうでない石を丁寧に教えてくれました。シジミの化石が3つとれました。楽しかったです。

(19-079 倉金正幸)

■私は化石はなんにもとれませんでした。でも、おとうさんたちが色々な石をとってくれました。おもしろかったです。

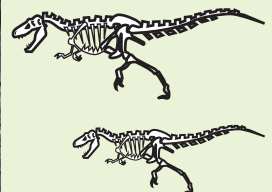
(19-080 倉金遙子)

■黒い石に含まれる黒い化石。しかも、ごく小さな断片なのに、「あっ、ここにいますね。」とすぐに見極める佐藤学芸員さんの「目」が私にもほしいところす。

(19-582 北川真理子)

■これをやって、化石がわかりやすい場所がわかった。最初はわからなかったけど、最後になってわかってきた。できたら、これを何かに生かしてみたいと思っている。

(19-087 大野英樹)





Aコーナーからのつぶやき

Aコーナー古生代の辺りで解説ボランティアをやっています。カンブリア紀のジオラマは、足を止めてのぞきこむ人も多く、人気あるスポットです。しばらく前にNHKが「生命40億年はるかなる旅」という番組でCG再現して見せたアノマロカリスやピカイアといった古生物が、ここでは立体で見事に表現されています。個人的には、目が5つあるオパピニアも是非模型にしてほしかった所です。

古生物を再現する時に一番の難関は、体の色ではないでしょうか。どんなに保存性のよい化石でも、色ばかりはわかりません。当館のアノマロカリスは、エビの様に赤く塗られていますが、もしかしたら青かったかもしれません。最近になって、「構造色」といって色素による色ではなく、体色の微細構造によって光を反射して見える色があった事がわかってきました。それはCDの裏側の輝きと同じような原理なのだそうです。カンブリア紀にも、ウィワクシアやマルレラなどCDの裏面のように輝いていたと思うと、古生物がぐっと具体性を持って身近に感じられませんか。

イギリス自然史博物館のフォーティー教授は「深海に三葉虫の生き残りがいるかもしれない」と言います。とても心惹かれます。5億年も昔の遠い世界ですが、確かに現代につながる系譜があつて私たちが存在します。現代との接点がたくさん見つければ、とても面白いと思うのです。

(19-559 木村香織)



気象予報士ってどんな人?!

こんにちは。気象予報士の櫻井です。親戚の小学生に気象予報士の資格を取った話をしたら、「いつテレビに出るの?」と聞かれました。気象予報士と言ったら、まずお天気解説者の森田さんやNHKの半井小絵さんが思い浮かびますよね。でも本当はどんな資格で何する人なんでしょう?自己紹介も兼ねて気象予報士について書いてみたいと思います。

私は小さいころから自然が好きで、中学では蝶や化石採集、高校では観音山地質調査、大学では前橋都市気候観測や流星観測など地学や気象関係の活動を行ってきました。しかし、それとは全く関係ない電気関係の会社に就職しましたので、しばらくそんな活動から遠ざかっていました。そんな時、博物館のボランティアの話があり、参加するうちにもう一度自然のことを学びたいと思うようになりました。50歳の節目にも当たって、気象予報士の資格を取ることになりました。

気象予報士は「気象の専門知識を持っている」という資格で、法律上、仕事として気象現象を予想することは気象予報士にしかできません。お天気解説者は解説するだけですので、気象予報士である必要はありませんし、(仕事でなく)個人で気象予想をするのは何の問題もありません。

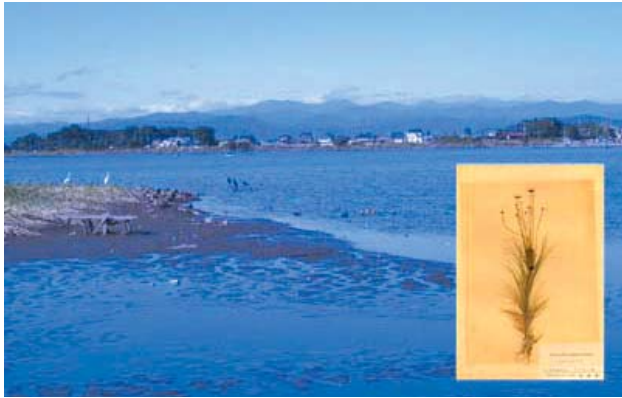
気象予報士は年2回行われる試験に合格して登録されれば誰でもなれます。年齢や学歴の制限はありませんし、経験もいりません。2007年3月時点で6,170名が登録されていて、そのうち気象予報の仕事をしている人は400名程度、そのほか気象関連の仕事をしている人が1,500名程度です。気象予報士会での自己紹介を聞くと小さい頃から天気のことを好きだったり、山登りやスカイスポーツなどの趣味が高じて資格を取る人が多いようです。私のように年齢がってから資格を取得しても趣味の延長でしかありませんが、若くて全国どこへでも行く気があれば仕事のクちはたくさんあります。もし気象に興味があつたら気象予報士を目指したらいかがでしょう。

写真は自宅の庭で氷の厚さを測っているところです。全国の気象予報士会の有志で行っています。

(19-524 櫻井昭寛)



イベント紹介



〈多々良沼にかつて生育していた絶滅種・タカノホシクサ(背景は現在の多々良沼)〉

第29回企画展

「100年の標本が語るぐんまの植物」

会期: 2008年3月15日(土)～5月6日(火)

場所: 自然史博物館企画展示室

当館収蔵の標本から、かつての群馬の豊かな植物の生育状況や風景を再現し、植物標本の意義や価値を紹介いたします。この企画展は、平成20年の春に本県で開催する全国都市緑化ぐんまフェアの行事の一環として実施します。

第30回企画展

「ザ・フィッシング」

会期: 2008年7月12日(土)～8月31日(日)

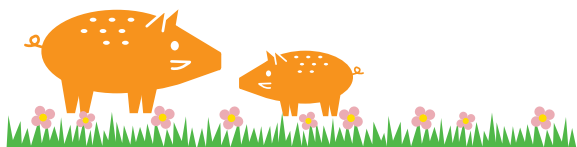
場所: 自然史博物館企画展示室

ヒトは、釣りをとおして魚や自然と関わりをもってきました。この企画展は、魚の生態に応じて編み出してきた釣り道具やその技法の変遷に焦点をあて、淡水魚の生態や多様性、そして魚類を取り巻く生態系について紹介します。

8月までの主なイベント

5 May

- ・友の会総会
- ・友の会講演会 (講師として長谷川善和館長を迎え、化石に関する話を予定しています。)



編集後記

第28回企画展「鳥たちの世界」。鳥たちの環境への適応やアホウドリ復活の取り組みなど、大変考えさせられる展示会でした。その後、友の会視察研修旅行で葛西臨海水族園を見学。クロマグロをはじめ、多くの魚たちが環境変化の中で、生き残りをかけた戦いを展開しているように思われ、「鳥たちの世界」と重なり合い、グローバルの目で環境と向き合う必要性を痛感しました。 柚木 郁(友の会通信編集員)

『友の会』の更新手続きと新規入会手続きを

年会費

- ①一般会員 3,000円
- ②高校生・大学生会員 2,000円
- ③小学生・中学生会員 1,000円
- ④家族会員 5,000円
- ⑤賛助会員 10,000円

入会による特典

- ①博物館の入館無料
- ②博物館からの情報配布
- ③友の会行事等への参加
- ④ミュージアムショップの割引

現会員の方は引き続き入会をお願いします。さらに、お知り合いの方々に新規入会をお薦めいただければ幸いです。

New 出版物の紹介

第29回企画展

「100年の標本が語るぐんまの植物」

販売開始 2008年3月15日(土)

予定販売価格: 一般 500円 会員 450円

賛助会員

(平成19年9月～12月末現在)以下の法人の方に趣旨賛同いただきました。ありがとうございました。

- 初山歯科医院 (1口)
- (株)ヌカベ (1口)

博物館利用案内

- 開館時間 午前9時30分～午後5時 (ただし入館は午後4時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)・年末年始
- 観覧料 一般500円 高校・大学生300円
※中学生以下・身体障害者手帳、療育手帳、または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料
企画展開催中は別料金